

## よいよい学びをめざして～ユニット研修・校内授業研究会

11月20日(水)、大畠小学校で学校運営協議会が開催されました。今回は、ユニット型研修(学年、教科の枠を解き、保護者や地域の方も参加しての授業公開やその後の研究協議を行う研修)ということで、小6の道徳科の授業を参観し、研究協議を行いました。授業は、マンションでおきたピアノによる住民同士の騒音トラブルの様子を描いた教材を使って、「ピアノを弾く権利」と「静かに生活する権利」の2つの権利がぶつかったときにどうしたらよいか、そして、この問題を解決したいマンションの管理人さんの行動や心情を通して、権利と義務のあり方やお互いが気持ちよく過ごすために大切なことを考えさせるものでした。(この問題は、中3の社会・公民でも取り上げられる教材なのですが、今の6年生が3年後にどう感じるか、どう成長しているかを楽しみにしています。)事後の研究協議では、「子どもたちが自分の意見をしっかりもって、発表していて驚いた」、「大人も参加したロールプレイはよかった」などの感想が聞かれ、柳井市教育委員会の指導主事にもご指導をいただきながら、よいよい授業づくりに向けて活発な意見交換がなされました。



グループに分かれて交代でロールプレイ(役割演技)をして、感じたことを発表し合いました。 研究協議の様子

また、大畠中学校では、生徒にとってのよいよい学びをめざして一人一授業の校内授業研究会を年間を通して実施しています。11月13日(水)は、教頭先生が「全校英語」で、「Have you ever ~?」の文型をつかって、「〇〇したことがあるか?」を尋ねたり、答えたりできるようになることをめざす授業を行いました。YESとNOの答えをそれぞれ10人ずつもらえるように質問を考え、次々に相手を替えて会話していきました。「大人の英会話」に来られているみなさんにも参加していただいでにこやかに授業が進み、普段とは違った学びの姿が見られました。



また、15日(金)には、特別支援学級を担当する先生が、「自立活動」の授業を行いました。生徒の興味関心に合わせながらも将来必要になる力も想定し、活動を仕組んだ授業でした。個に応じた支援で生徒の成長を育む特別支援教育の視点から学ぶことの多い授業でした。

## 「ゴールボール」って?～3年・体育

11月18日(月)、校内授業研究会として「保健体育」の授業がありました。14日(木)の「人権教育講演会・車いすラグビー体験」に関連して、「ゴールボール」を取り上げた授業でした。「ゴールボール」は、視覚障がいのある選手がプレーするパラリンピック特有の競技で、1チーム3人が鈴の入ったバスケットボール大のボールを互いに投げ合い、得点を競うスポーツです。(パリ・パラリンピックでは男子日本代表チームが見事金メダルを獲得しています。)



「アイシェード」と呼ばれる目隠しを装着し、全盲状態でプレーします。

音を頼りにボールの方へ



どうやったらいいのか・・・チームで相談して・・・

振り返りをタブレットにまとめます

生徒の振り返りからは、「目が見えないといろんなことをするとき怖いだろうし、不安が強いだろうなと思いました」とか、「もし目が不自由な人にあったら、声をかけたり、もし困っていたら助けてあげたりしたいと思いました」、「スポーツを通して、障害があっても協力しあったりできると思いました」など、ゴールボールの授業を通じて、私たちにできることや障害の有無を超えたスポーツの可能性についての感想が聞かれました。共生社会の実現に向けた経験を、また一歩進めることができたようでした。

## どこで被災しても生きて帰る～専門家等と連携した防災出前授業



11月21日(木)、徳山工業高等専門学校(日本防災士、災害時外国人サポーター)の先生をお迎えして、「専門家等と連携した防災出前授業」を実施しました。「被災する場所は選べないので、いろいろな情報を知り、その知識をもとに、とっさに判断し、行動することが、どこで被災しても生きて帰るため大切なこと」と教えていただきました。クイズやニューヨークでの体験談などを交えて、分かりやすくお話していただき、防災に対する意識を高めることができました。

### 【 生徒の感想から 】

- ・帰宅困難者になった時、どんな行動をとればいいのか分かりました。もし、災害が起こったときに電話はつながらない可能性が高いので、その時は171という番号にかけようと思いました。
- ・災害が起きてから行うのが減災、災害が起きるまでに行っておくことが防災ということがわかりました。実際に災害が起こってから大変だけど、起こる前の備えがいちばん大切だということがあったので、家族でしっかりと話し合っておこうと思いました。